

令和4年度 掲載一覧

学校名・取組をクリック！

No	校種	領域	学校	取組
1	連携	防災	岩国市立本郷小中学校	保・小・中合同防災訓練
2	連携	防災	阿武町立阿武中学校	阿武小中学校・みどり保育園合同避難及び引き渡し訓練
3	連携	防災	周防大島町立大島中学校	防災学習（実習を含む）と引き渡し訓練
4	連携	防災	光市立光井小学校	引き渡し訓練
5	連携	複合	光市立光井中学校	小中合同集団登校
6	連携	防災	防府市立佐波小学校	幼小連携による洪水・内水氾濫対応行動避難訓練
7	連携	複合	山陽小野田市立高千帆中学校	教職員・児童生徒・保護者・地域が協働した安全マップの作成
8	連携	防災	下関市立内日中学校	内日地区防災訓練（地域・小中合同）
9	小学校	防災	岩国市立藤河小学校	聞いて、見て、考えて、みんなで安全に避難しよう
10	小学校	防災	柳井市立柳北小学校	柳北地区合同防災訓練
11	小学校	防災	田布施町立東田布施小学校	砂防教室及び緊急時避難訓練
12	小学校	防災	下松市立下松小学校	4年総合「命を守るために」
13	小学校	生活	周南市立富田東小学校	小学校引き渡し受付の効率化 「バーコードによる認証（名簿作成ツール）」の活用
14	小学校	生活	山口市立名田島小学校	地域の危険箇所合同点検
15	小学校	交通	防府市立富海小中学校	実物のトラックを使った交通安全教育
16	小学校	生活	防府市立右田小学校	応急手当講習受講 救命入門コース（小学生）
17	小学校	防災	防府市立松崎小学校	地域の防災士会と連携した集団下校・危険箇所点検
18	小学校	複合	防府市立中関小学校	地区別下校
19	小学校	防災	宇部市立神原小学校	地域力を活用した防災対応能力の向上を図る防災学習・防災訓練の実施
20	小学校	防災	宇部市立原小学校	「ポケドボ」で防災学習（5年生「総合的な学習の時間」）
21	小学校	生活	美祢市立豊田前小学校	着衣水泳
22	中学校	生活	平生町立平生中学校	一次救命処置について講義及び演習
23	中学校	交通	下松市立久保中学校	VR動画を活用した体験型被害防止教室
24	中学校	生活	周南市立富田中学校	教職員研修（食物アレルギー対応・一次救命措置）の実施
25	中学校	交通	山口市立小郡中学校	小郡中学生と語ろう
26	中学校	生活	防府市立国府中学校	食物アレルギー対応研修
27	中学校	交通	宇部市立藤山中学校	自転車危険マップづくりとルール啓発
28	中学校	防災	萩市立田万川中学校	専門家等と連携した防災ワークショップ
29	中学校	防災	長門市立菱海中学校	避難訓練及び防災研修の実施
30	中学校	防災	和木町立和木中学校	避難訓練と防災訓練
31	県立	複合	山口県立岩国総合高等学校	安心・安全に過ごすために！
32	県立	防災	山口県立高森高等学校 山口県立高森みどり中学校	アクションカードを使用した避難訓練（火災を想定）
33	県立	生活	山口県立防府西高等学校	危険予知訓練（KYT）授業
34	県立	交通	山口県立防府商工高等学校	通学路危険個所での安全な通行方法
35	県立	防災	山口県立山口松風館高等学校	避難訓練（火災）
36	県立	生活	山口県立宇部中央高等学校	教職員研修救急法講習会
37	県立	防災	山口県立下関中等教育学校	令和4年度第1回防災避難訓練（地震・土砂災害）
38	県立	複合	山口県立宇部総合支援学校	危機管理マニュアルの見直し
39	県立	防災	山口県立山口南総合支援学校	大規模災害対応の机上シミュレーション

取組名	保・小・中合同防災訓練		
特徴	災害時に、近隣に位置する保育園・小中学校と地域が連携した避難訓練		
学校名	岩国市立本郷小中学校	期日	令和4年6月9日(木曜日)

1 ねらい

- 梅雨期及び台風シーズンにおける洪水・土砂災害に備え、隣接する保育園及び小中学校が連携した防災訓練・防災学習を実施することにより、園児・児童生徒や教職員の危機対応能力を高める。また、防災教室等の計画・実施を通して、市の防災担当部局との十分な連携体制ならびに園や学校の防災体制を確立する。

2 概要

(1) 取組の経緯

- ・平成23年度より、地域の協力のもと、保小中が連携した防災避難訓練を継続して実施している。平成26年には夏季休業中に宿泊を伴う「避難所生活体験」を実施し、防災学習の専門家からの指導を受けながら、地域における危険箇所や非常食体験などを学習した。
- ・地域や保護者の防災意識は高く、防災訓練等に積極的な参加・協力をいただいている。

(2) 避難行動

- ・10時40分 土砂災害降雨危険度警戒レベル4が発令
園長・校長の連絡、避難行動の決定
- ・10時45分 避難指令・避難行動
保育園児（徒歩）→ ふるさと交流館
小・中学生→正門前（一次避難）
[人員確認・避難経路の安全確認]
→ ふるさと交流館（二次避難）[人員確認]



「避難の様子」

(3) 指導講話

- ・11時05分 消防署職員による講評・指導
DVD視聴後、講話



「講評・指導の様子」

(4) 各学級で防災学習及び振り返り

- ・11時40分 発達段階に応じた「防災クイズ」、
「防災KYT」（県教委資料等活用）、
「避難カード」（県防災危機管理課より）
等を活用して各学級で実施した。



「防災学習の様子」

3 成果と今後の課題等

- 消防署の方から岩国市土砂災害ハザードマップ（土砂災害警戒区域：本郷地域）をもとに、災害の発生場所・頻度や発生時間、避難行動の方法などについて詳しく学ぶことができた。
- 生徒一人ひとりが協力して命を守り抜くために、「いま自分がすべきこと」「自分より困った状況の人はいないか」など絶えず考えて行動できるよう指導していく必要性を感じた。時代遅れの知識や意識のアップデート、非常時の通信手段の共通理解、教職員や地域のこれまでの経験から生じる想定外を想定した準備等、山積している喫緊の課題に対応できる最新の実践的・実効的な「防災を通じた教育活動」の重要性を感じた。

取組名	阿武小中学校・みどり保育園合同避難および引き渡し訓練【地震・津波対応】		
特徴	園児・児童・生徒・教職員および保護者・地域が連携して防災意識を高める。		
学校名	阿武町立阿武中学校	期日	令和4年11月8日(火曜日)

1 ねらい

- 園児・児童・生徒、教職員および保護者の防災意識を高める。
- 教職員の指示や放送による指示で、安全かつ迅速に避難する態度を身に付ける。
- 保育園児が避難する際に中学生が協力することを通して、保小中連携(地域協育ネット)による効果的、実践的な避難訓練の在り方を探る。
- 引き渡し訓練を通して、様々な災害や緊急事態発生の際の園児・児童・生徒の安全確保について、家庭との連携を確認・強化する。

2 概要

(1) 事前指導

- ・ 情報を正しく聞き取り、安全で迅速な行動がとれるよう、地震・津波対応についての事前指導を各学級で行う。

(2) 状況の想定

14時00分地震発生。地震発生後(2分後)に津波警報が発令される。

(3) 避難訓練の流れ

- ① 地震発生
- ② 揺れが収まり、教職員で学校施設の安全確認を行う。
- ③ 緊急津波警報が発令される。
- ④ 阿武町町民センター2階に避難(保・小・中合流)
- ⑤ 多目的ホールに場所を移し、講評及び指導講話(阿武小学校:校長)

(4) 引き渡し訓練の流れ

- ① 子どもは一度学校に戻り、荷物を持って町民センター多目的ホールに集合する。
- ② 保護者引き渡し開始のメール配信を行う。
- ③ 保護者へ引き渡しを行う。

3 成果と今後の課題等

成果・・・昨年度に引き続いて保育園・小学校・中学校が連携し、合同の引き渡し訓練を行った。事前の打ち合わせから改善案を出し、兄弟の名簿でまとめて受付をすることで、昨年度よりもスムーズに引き渡しをすることができた。今後とも反省や気付きをもとに、PDCAを回していくことが大切である。

課題・・・「この時期だからできた」ではなく、来年度の早い段階から、同じ様式で名簿やカードを兄弟側に揃えておく必要がある。今回は保護者の参加者が半数に満たなかったが、今回得た手応えや反省をもとに、人数が増えた場合も速やかに対応できるようなシステムを構築していきたい。



「2階に避難する様子」



「迎えを待つ様子」



「保護者受付の様子」

取組名	防災学習（実習を含む）と引き渡し訓練		
特徴	大島商船高等専門学校から講師を招いての防災学習と、保護者と共同実施した引き渡し訓練		
学校名	周防大島町立大島中学校	期日	令和4年10月5日(水曜日)

1 ねらい

- 災害・防災について専門家の話を聞くことで、命を守るための知識や意識を高め、日常の防災・減災への意識と災害時の自助・共助意識を向上させる。
- 訓練を通して生徒の自然災害と防災に対する意識を高めるとともに、教職員の危機管理能力の向上を図る。

2 概要

(1) 大島商船高等専門学校の准教授から、大島中学校区の危険箇所や緊急時対応を学ぶ。

- ハザードマップを活用し、学校及び住宅周辺の危険箇所の確認。
- 災害発生時の行動や災害発生時に備える準備物の講演。
 - ・過去の災害事例から避難の心得や回避行動の原則を習う。
 - ・災害発生時のライフラインの確保と、役立つ準備物やその使い方に関する知識を向上させる。



「准教授によるお話の様子」



「災害時に役立つ準備物」

(2) 災害発生時に備えて、身の安全を守るための技術を高める。

- 助教授による洪水や津波を想定した、命を守るためのロープ実習。
 - ・全体指導の後に、もやい結びができるように教えあう。



「助教授によるロープ実習」



「教えあうことで理解を深める」全参加者ができるようになりました。

(3) 災害発生時の保護者との連携。

- 引き渡し訓練によって、子どもの命を守る訓練。
 - ・避難場所や引きや渡し方法を確認する。



「引き渡し訓練の様子」

3 成果と今後の課題等

(1) 成果

- ・専門家の話を聞き、災害発生時に必要な知識や適切な行動の確認ができた。そのことで防災・減災への意識の高まりがあった。
- ・保護者と共同実施をすることで、迅速な連携が取れるようになった。

(2) 課題

- ・天候や感染症の影響もあり保護者の参加が多くなかった。定期的に学校と保護者、その他関係機関等と連携しながらできる活動を仕組み、地域で子どもを守るという意識を高めていきたい。
- ・地震や洪水・火災に加えて、近年は兵器による攻撃も懸念されている。講話やインターネットを活用して防災に関する新しい知識を増やし深めていきたい。

取組名	引き渡し訓練		
特徴	光井中学校と同時開催・地域の防災士との連携		
学校名	光市立光井小学校	期日	令和4年11月15日（火曜日）

1 ねらい

- 災害や事件・事故等で保護者の迎えを要請する事態になったときに、保護者・地域と連携し、児童を安全且つ確実に引き渡す体制を整える。
- 異常事態において教職員が、安全且つ確実・迅速に児童を保護者に引き渡すことができるようにする。
- 防災士の視点からのアドバイスをすることで、災害時に向けた体制を整える。

2 概要

(1) 想定

- 集中豪雨により、通学路に冠水箇所あり。徒歩による下校は危険を伴うことが考えられる。児童の安全確保のため、保護者に児童の引き取りをお願いする。光井中学校も生徒引き渡し下校とする。
- 実践に近い形での訓練とするために、受付設置等の事前準備をせずに訓練開始と同時に教職員で分担して体制を整えた。

(2) 訓練当日

- 訓練開始の放送と同時に児童は担任の引率で体育館に避難。担任以外で、引き渡しに向けた受付づくり等の準備を行った。
- 防災士の方に様子を見てもらい、訓練後に助言をいただく。
- 引き渡しについては、担任を中心にスムーズに保護者に引き渡すことができた。



避難の様子



引き渡しの様子



防災士を含めた地域の方々との反省会の様子

3 成果と今後の課題等

○成果

- ・ 訓練開始から20分で児童の避難及び引き渡しの受付設置まで行うことができた。
- ・ 兄弟関係にある児童生徒についても中学校と連携し引き渡すことができた。
- ・ 交通整理も一方通行や左折をお願いし、スムーズに実施することができた。

○課題（防災士からのアドバイス）

- ・ 訓練当日は晴天であり、集中豪雨想定がしづらい状況であったが、できるだけ実際に起こることを想像しながら、話題を共有することが訓練には大切である。
- ・ 防災用品等はコミュニティ・センターと協力すれば充実させられる。
- ・ 地域の方も借りた避難や引き渡しも連携すれば可能になる。
- ・ 児童の待ち時間が長い場合に高学年が低学年の相手をするなどすれば安心できるのではないだろうか。

取組名	小中合同集団登校		
特徴	コミュニティ・スクールの良さを活かし、さらにはICTも活用した。		
学校名	光市立光井中学校	期日	令和4年11月15日（火曜日）

1 ねらい（小中合同登校当日のねらい）

- 登校中に災害が発生した場合に、自分の身を守るための行動ができる。（自助）
- 通学路の安全を確認しながら小学生を安全に学校まで誘導できる。（共助）また、登下校時の態度やあいさつ活動の模範となる。
- 登校時に災害が起こった際の安全管理体制を構築する。（公助）

2 概要

(1) 熟議で登下校における危険箇所を様々な視点から協議→タブレットに集約

- 令和4年9月29日（木曜日）に第3回光井小中合同学校運営協議会を実施。小中学校教職員に加え児童生徒や地域の方、近隣の高校の教員も参加し、8グループに分かれ校区内の危険箇所について協議。
- 協議には紙媒体の地図だけでなく、タブレット端末（Googleアース）を活用し、現場の様子を確認しながら、どのような場所がどのように危険なのかを、協議した。
- タブレット端末に情報を集約し、子どもがそれを確認できる仕組みをつくった。



熟議の様子



熟議の内容をオンラインで発表



意見を集約したタブレットの画面

(2) 令和4年11月15日（火曜日）小中合同集団登校

- 小中学校ごとに班をつくり、合同で登校。危険箇所について確認を行った。
- 班ごとに小学校の体育館前まで行き、小学生を学校に送り届けた。
- 学校安全アドバイザーにも来ていただき、危険箇所の様子や登校の様子を見てもらい助言をいただいた。



危険箇所を確認する様子



児童と生徒と一緒に登校



小学生を学校へ送り届ける様子

（光井小学校グラウンド）

3 成果と今後の課題等

- ・ 熟議での協議内容を「登下校」にスポットを当てたことで、交通安全に関する意識は生徒だけでなく、教職員や保護者、地域の方の中で高まった。
- ・ 教職員の立場から見える危険箇所だけでなく、生徒や保護者・地域の方などの複数の立場から考えることで、様々な視点に立った考え方を全員が知ることができた。

取組名	幼小連携による洪水・内水氾濫対応行動避難訓練		
特徴	幼稚園・地域との連携		
学校名	防府市立佐波小学校	期日	令和4年6月20日（月曜日）

1 ねらい

- 不測の危機に対して、児童自らが的確な判断力と安全な避難行動を身に付ける機会（6年生は幼稚園児を避難させる経験をもとに共助の精神を培う機会）とする。
- 近隣の幼稚園と合同訓練を行うことで幼小連携の課題を見だし、より望ましい実践行動につなげる。

2 概要

(1) 合同による企画

- ・幼稚園児の特性と本校の設備・環境を照合し、留意点を洗い出す。（校舎入口の段差、階段の高さ、待機場所等）
- ・時間の幅を持たせたタイムスケジュールを立てる。（園から小学校までの移動、階段昇降のための所要時間）
- ・それぞれの実施計画案を共有する。

(2) 合同避難訓練

- ・6年生は「園児を安心させる」というめあてで臨んだ。

佐波地域防災避難訓練 実施要項 (案) 令和4.6.1

1. 訓練の目的 (児童・園児) ○佐波川の氾濫を想定した基本的な避難行動を理解する。 ○指示に従い、安全な場所 (佐波小学校3階) に避難することが出来る。

(教職員) ○佐波川の氾濫時における、園児の生命確保に向けた適切な判断と対応能力を高める。 ○役割分担に従った動きをするとともに、問題点をつかむ。

2. 実施日時 令和4年6月20日(月) 13:15~14:20


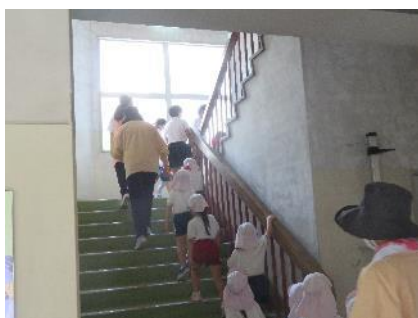
3. 訓練場所 佐波幼稚園並びに佐波小学校(運動場南側・校舎2階)

4. 訓練内容 ①佐波川の氾濫に伴う初期対応能力を身に付ける。 ②園庭への避難から地域防災拠点である佐波小学校へ移動避難する。

5. 動きと留意点

《佐波小学校の動き》 13:30 佐波川の氾濫発生放送① 訓練、訓練。雨からの大雨により佐波川区の川の水かさが増えて洪水の危険があります。児童のみなさんは、先生の指示に従って避難してください。

《佐波幼稚園の動き》 13:15 佐波川の氾濫発生放送① 避難訓練に 昨日からの大雨で佐波川の水位が上がり、水があふれるおそれがあります。園児のみなさんは、先生の指示に従って佐波小学校へ避難をしてください。

<年長さんはひとりで>



<緊張しながら待機>



<降りるときはより慎重に>

(3) 振り返り

- ・振り返りもその日に行い、それぞれの成果と課題をまとめ、次に生かすこととした。
- ・運営協議会委員からは称賛の言葉をいただいた。地域を巻き込んだ訓練実施を提唱された。

3 成果と今後の課題等

園と小学校が、企画、実践、反省について協働してできたので、よりよい実践につなげられる訓練となった。

学校運営協議会委員だけでなく、保護者や自治会の人、防災士会など、より多くの人を巻き込む必要を感じた。また市の防災部局にお願いし、大雨時などの佐波川の危険性を系統的に学べるように学校・地域連携カリキュラムを編成していく。

来年度は、地元の自治会（八王子2丁目）と連携した避難訓練も実施する予定である。



地域防災避難訓練を振り返って 令和4.6.21

1. 時系列の対応

13:00	「訓練15分前」を通報。小学校へも連絡。
13:15	避難警報の第1報「大雨による佐波川の水位が上昇して洪水の危険が出てきました。園児の皆さんは、先生の指示を厳格に聞いて佐波小学校へ避難してください。」
13:20	先生の指示で園庭に避難開始 園庭に学年毎に集まり避難を始める
13:30	園庭から、佐波小学校体育館に避難完了 (所要時間 10分) 信号機の横断 3回でクリア
13:35	6年児童の誘導で3階・2階へ避難開始
13:45	3階・2階へ避難完了
13:55	全体講話 校長・訓練終了
14:00	体育館にて園長謝辞

2. 反省点

○良かった所

- ・児童の指示で子どもの動きが良い。(避難歩行)
- ・黙って、黙早くの行動がとれていた。
- ・警報を持って取り進んでいた。
- ・園庭から直に、小学校への移動。
- ・事務主任(築福)、教育技術(借司交差点の観察)、事務(記録写真)
- ・小学校との事前の連携会を文書出来た。

△今後に向けた反省点

- ・体育館での全校放送が入らなかった。6年生の誘導避難開始が遅れた。
- ・小学校校舎入り口のドアが半開きで流れが滞った。
- ・準備物の事前点検をすること。
- ・出陣簿・ホイッスル・園警監照準・夜間旗・ハンドマイク等
- ・実施後の反省協議が必要
- ・実施内容・役割分担・時系列・実施の可否等
- ・避難を終えた後のこどもの対応をどうするか
- ・保護者の迎え、非常食、駐車場、送迎係り等

3. その他

取組名	教職員・児童生徒・保護者・地域が協働した安全マップの作成		
特徴	保護者・地域・小学校との連携		
学校名	山陽小野田市立高千帆中学校	期日	令和4年10月19日（水曜日）

1 ねらい

- 危険箇所マップの作成と点検を通して、中学校と地域・保護者・校区内小学校が連携して通学路の危険箇所を確認し、身近な地域の交通安全・防犯安全・災害安全に対する意識を向上させる。
- 地域教育協議会「体の部会」を中心に作成した危険箇所マップを元に、通学路における危険箇所を毎年更新する。

2 概要

(1) 高千帆中学校区の危険箇所の把握とマップの作成（地域教育協議会「体の部会」）

- ・校区内3小学校の元気マップの活用
- ・地図の提供と元気マップ情報の集約
- ・令和3年度版の危険箇所マップの作成と合同学校運営協議会での報告



合同学校運営協議会の様子



令和3年度
危険箇所マップ

(2) 危険箇所の更新

- ・各生徒の通学路の確認とともに、新たな危険箇所の追加（保護者・生徒が各家庭で）→危険箇所は、関係機関との通学路合同点検でも活用
- ・合同学校運営協議会（1中学校3小学校）での報告
- ・提出された危険箇所の集約とマップへの反映、確認（地域教育協議会「体の部会」）
- ・地域教育協議会全体会での報告（令和4年版の完成）



令和4年度
危険箇所マップ



合同学校運営協議会の様子

(3) 作成後の活用

- ・学校ホームページ、学校だよりでの周知
- ・各学級への掲示と校内での大判カラープリントでの掲示による生徒への啓発

3 成果と今後の課題等

- 小学校の元気マップ（地域で遊んだり運動したりできる場所を含める）に対して、中学校は、交通・防犯・災害の3つの視点から、危険箇所を抽出した。年度初めに、全生徒、保護者から通学路の確認と同時に危険箇所の追加・訂正を募り、それぞれの意見を生かしたマップを作成することができた。
- 毎年、見直しを行い更新することを予定しているが、ホームページ上での提示の仕方など、新たな意見を各所から得ている。生徒や保護者、地域の方々、関係機関と連携した現地を確認を含めて、今後さらに有効な活用方法を検討・実施することが課題である。

取組名	内日地区防災訓練(地域・小中合同)		
特 徴	小・中学校・保護者・地域が連携した防災訓練の実施		
学校名	下関市立内日中学校	期日	令和4年7月3日(日曜日)

1 ねらい

- 自分の身を守るための基本的な行動（避難行動）をとることができる。
 - 地域住民や小学生との協力的な関わりや行動をとることができる。
 - 地域と共に活動する取組をとおして、地域の担い手としての意識を深めることができる。
- 以上の3点を検証する。



災害ボランティア活動後講演

2 概要

(1) 取組の流れ

- ・地域と連携した7回目の防災訓練である。小学校が避難所という想定で実施し、保護者引き渡し訓練もあわせて実施した。
- ・中学校では、事前学習として山口県学校防災アドバイザーを講師として「災害ボランティア活動講演会」を開催した。講師が国内の災害時に参加したボランティア活動の様子から災害時の心構えや中学生の役割について、学習することができた。
- ・避難訓練及び引き渡し訓練では、今年度から避難後に中学生による避難所運営の手伝いを試みた。中学生にとって事前学習で学んだことを生かし、地域の防災活動に主体的に参画する場面となった。



避難所手伝い①



避難所手伝い②

(2) 当日の流れ

- ・想定
 - 12:50 地震発生
 - 13:00 小学校に避難所開設
- ・訓練
 - 13:00 小学校体育館へ避難開始
 - 13:10 保護者引き渡し訓練開始
 - 13:30 保護者引き渡し訓練終了
 - 講評（小学校長、地域担当者）
 - 避難訓練終了



地域担当者講評

3 成果と今後の課題等

(成果)

今年度より、避難所運営に中学生が参加する場面を設定した。地域の方と一緒にお茶やパンフレットを配ったり、検温や受付の誘導を行ったりするなど生き生きと活動する様子が見られた。また、生徒の振り返りでは、避難訓練に主体的に参加できたという感想や地域の方への尊敬や感謝の気持ちが表れており、本活動のねらいを達成する上で有効な活動であったと考える。

(課題)

昨年度とは異なり、小学校に設置した避難会場に、各自治会から代表者が小学校に開設した避難所に集合する形となった。今後もコロナ禍にあっても十分な感染症対策を実施しながら、災害によるさまざまな場面を想定した実効性のある活動にできるよう地域と小中学校が連携を進めていく必要がある。

取組名	聞いて、見て、考えて、みんなで安全に避難しよう		
特徴	事前に、日時、訓練設定等を知らせない避難訓練		
学校名	岩国市立藤河小学校	期日	令和4年11月2日（水曜日）～9日（水曜日） 令和4年 6月7日（火曜日）～9日（木曜日） 必要に応じて随時

1 ねらい

- 学校で地震や火災、不審者事案が発生した場合に、自分の身を守るための基本的な行動をとることができる。
- 学校で地震や火災、不審者事案が発生した場合に、状況を正しく理解して、みんなで安全かつ迅速に避難できる方法を判断し、行動に移すことができる。

2 概要

(1) 取組の特徴

- ・より安全な避難の仕方を選択する判断力を養うため、いろいろな状況を想定し、繰り返し訓練。（1回の訓練10～15分程度）
- ・放送による情報収集、複数の避難経路の確認、とるべき行動、訓練の必要性について指導。（担任がいない状況も想定）
- ・基本的に訓練日時、火災発生場所や避難場所、避難場所の状況等の情報等は前もって伝えない訓練。（子どもたちの発達段階や実態への配慮あり）

(2) 取組の実際

- ・担任がいない想定・・・子どもたちが放送で、とるべき行動を判断。
- ・地震発生の放送・・・放送を聞き、身を守るために、机の下にもぐり、対角の脚をもって次の指示が出るまで待機。
- ・家庭科室で火災の確認。放送で家庭科室から遠い体育館への避難を指示。ただし、体育館は地震の影響で扉が開かないため入れない想定・・・子どもたちは、家庭科室から遠い西側の階段を使って避難。体育館に向かうが入れないことを確認。声を掛け合いもう一つの避難場所運動場を選択し、移動。高学年が低学年へ避難場所の変更を指示。
- ・運動場への避難完了・・・担任が合流し人数確認。報告を行い全員の安全を確認。
- ・振り返り・・・避難の仕方や判断の仕方について振り返り。



さあどうする判断の場



高学年が低学年に指示



大切な振り返りの場

3 成果と今後の課題等

(1) 成果

- ・事前に日時や訓練設定等を知らせない訓練でいろいろな状況を想定しながら、繰り返し訓練に取り組むことで、子どもたちの判断力の向上がみられるようになった。考えることが習慣化してきた。
- ・子どもたちが正しい情報を得るために、放送を黙ってよく聞くことの必要性を理解し、訓練に真剣に取り組む姿が見られるようになった。
- ・いろいろな状況を想定することで、教職員の危機意識の向上がみられるようになった。
- ・子どもたちも教職員も振り返りを大切にするようになった。

(2) 課題

- ・避難経路の確認や避難のルール of 徹底を判断の基準を示すためにも、年度当初の指導を充実したものにする必要がある。
- ・より安全に避難するためにも、訓練の内容を工夫し、専門機関と連携して今後進めていくことが必要である。
- ・訓練の実施と振り返りのサイクルを確立し、常に見直しを続けながら、より安全性の高さを求めた訓練ができるようにしていくことが必要である。

取組名	柳北地区合同防災訓練		
特徴	柳北小学校・柳北地区コミュニティ協議会共催 柳北地区地域住民・柳北小学校児童及び教職員・柳北小学校PTA、柳北小学校学校運営協議会委員、柳井市消防団柳井分団参加の合同防災訓練		
学校名	柳井市立柳北小学校	期日	令和4年9月3日（土曜日）

1 ねらい

- 災害から自分の命、家族の命を守るため、「必ずみんなで助かる！」という思いで、日頃からの備えや取組について振り返り、柳北地区全体で防災意識の高揚を図る。

2 概要

(1) 取組の経緯

- ・本校で7年前から柳北地区コミュニティ協議会との共催で柳北地区合同防災訓練を実施している。防災講話や放水体験、地域の方との避難活動などさまざまな活動に取り組み、防災の日に関連した地域の行事として定着している。

(2) 取組内容

- ・防災教室「必ずみんなでTASUKARU（助かる）教室」
地震や津波を想定した避難の仕方や日頃からの備えについて、柳北防災アドバイザーの方からお話をいただいた。特に「自分だけは大丈夫」と考えず、早めの避難が大切だということがわかった。
- ・避難訓練
南海トラフ巨大地震（想定：震度6弱+津波）を想定し、避難訓練を実施した。各教室でシェイクアウト訓練を行った後、運動場等に避難した。（一次避難）その後、海拔10m以上にある企業の駐車場や校舎屋上に避難した。（二次避難）
- ・防災体験
起震車による地震体験、消防車による放水体験、防災マップの確認、防災用品の展示を行った。



「児童と地域住民合同の防災教室」



「地域の高台へ避難する様子」



「起震車で地震の揺れを体験」



「自分の地区の危険箇所を確認」

3 成果と今後の課題等

- 学校・保護者・地域・行政が合同で防災に関して学習し、訓練することによって、安心・安全な地域づくりにつながっている。特に、高台や校舎屋上に実際に避難したり各地域のハザードマップを確認したりすることによって、避難経路や避難場所の見直しや危機管理マニュアルの改善について話し合うことができた。
- 防災の日の関連した地域行事として柳北地区合同防災訓練が定着してきている。毎年、改善をしながら継続して実施していきたい。
- コロナウイルス感染症拡大防止のため、縮小開催していたが、今年度から、できることから再開した。児童や地域の安全を守っていくために各関係機関がよりよい連携を行っていく必要がある。

取組名	砂防教室及び緊急時避難訓練		
特徴	行政・保護者との連携		
学校名	田布施町立東田布施小学校	期日	令和4年5月22日（日曜日）

1 ねらい

- 土砂災害の危険性や備えの大切さについて理解と関心を深め、土砂災害防止に関する知識を得るとともに、意識の向上を図る。
- 災害や凶悪犯罪の発生により児童の安全確保が最優先される場合の下校方法を訓練することにより、児童を安全かつ確実に保護者へ引き渡すことができる仕組みと校内体制の確立を図る。

土砂災害の前兆は？



2 概要

(1) 山口県土木建築部砂防課による出前授業

- ・土砂災害が起きるかも！
- ・土砂災害はなぜ起こる？
- ・砂防ダムって何？
- ・土砂災害から身を守るには？



土砂災害災害から身を守るために自分ができることは？

(2) 緊急時下校訓練による保護者への児童引き渡し

- ・訓練の実施に関する通知（保護者・地域・児童クラブ等）
- ・保護者への「引き渡し登録カード」の配付と登録者の確認
- ・テストメールの配信によるメール配信の確認

（ここまで事前準備）

- ・保護者への緊急メール配信
- ・体育館での児童引き渡し



引き渡し訓練の様子

3 成果と今後の課題等

本校近隣には、灸川（やいとがわ）という大雨時に氾濫しやすい河川や土砂災害警戒区域があり、土砂災害という現象や危険箇所を知っていざというときに的確に判断して行動する力が児童自身に必要な。そのため今回の出前講座を企画したが、自分自身で危険箇所を確認するところまでは至っていない。今後、児童が地域の中で危険箇所を見つけ、土砂災害から自身の身を守る方法を考える活動が必要である。

取組名	4年総合「命を守るために」		
特徴	多方面の専門家と関わり、自然災害についての実践力を身につける。		
学校名	下松市立下松小学校	期日	令和4年9月～12月

1 ねらい

- 色々な災害に対して命を守るための行動や対策について知る。
- 自分や家族の命を自分たちで守るための防災、減災について考え、生活に生かす。
- JRCメンバーの一員としての自覚をもつ。

2 概要（主な活動）

(1) 第1次（課題設定）

- 自然災害について知り、命を守るために必要なことへの課題をもつ。
 - ・災害に対する備えについて
 - ・JRC(青少年赤十字)の活動について（日本赤十字）
 - ・身近な災害について



「(1) JRC の活動について」

(2) 第2次（探究）

- 地域での災害に対する備えを知ったり体験したりして、自分のとるべき行動について考える。
 - ・身近にある防災施設調べ
 - ・下松で起こった自然災害（市役所防災危機管理課）
 - ・避難所体験（日本赤十字）
 - 段ボールベッド・段ボールトイレの組み立て体験
 - 防災トイレの仕組み・組み立て体験
 - 防災食の試食体験
 - 気象情報をもとに、防災・減災についてのシミュレーション
 - ・体験活動振り返り



「(2) 下松で起こった自然災害について」



「(2) 避難所体験 段ボールベッド・段ボールトイレの組立」

「防災トイレの仕組み体験」

「防災食の試食体験」

(3) 第3次（まとめ・表現）

- 今後の自分の生き方をまとめる。
 - ・災害マップ作り
 - ・災害に対する備え
 - ・命を守るために



「気象情報をもとにシミュレーション」

「振り返り」

3 成果と今後の課題等

自然災害について知れば知るほど児童の興味関心が強まり「もっと知りたい」「もっと調べたい」という感情が生まれ、体験活動の意味を自分たちで感じ取ることができた。

体験を通して「家族に伝え話したい」「家の近くのお年寄りにも声をかけ合って助け合いたい。」「まだまだ知らないことが多すぎるから調べたい。」など、次から次に学習意欲が湧き、より深い探究学習になっていった。

ゲストティーチャーを入れるタイミングが学習の流れや児童の意欲のつながりに大きく影響するため、生きた力にするためにも、単元の再構成をしなければならないと感じた。

取組名	小学校引き渡し受付の効率化 「バーコードによる認証（名簿作成ツール）」の活用		
特徴	学校・保護者・地域・市教委との連携		
学校名	周南市立富田東小学校	期日	令和4年6月16日（木曜日） 6月17日（金曜日）

1 ねらい

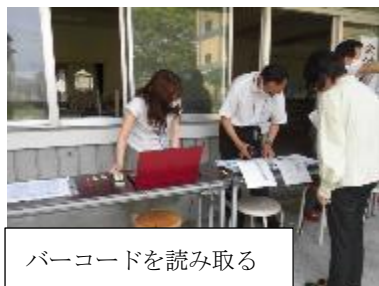
- バーコードによる認証を取り入れることにより、保護者への引き渡し時の安全性の確保と受付待ち時間の短縮を図る。
- 緊急時、通常のマニュアル通りの教員数が確保できない場合もあることから、より安全な引き渡し方法を検証する。

2 概要

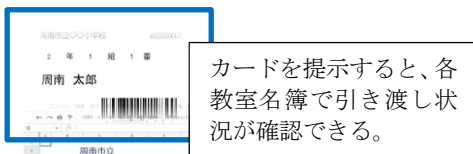


引き渡し 10 分前の様子

訓練として予定していた引き渡しの日に、「児童誘拐予告メール」への対応として「市内小学校の緊急引き渡し」を実施することとなった。緊張感の高い、引き渡しとなった。



バーコードを読み取る



カードを提示すると、各教室名簿で引き渡し状況が確認できる。

学年	受付1	受付2	受付3	受付4	受付5	受付6	引き渡し状況
1-1	1-1-6	2-1	2-6	3-1	3-6	4-1	4-6
1-2	1-7	2-2	2-7	3-2	3-7	4-2	4-7
1-3	1-8	2-3	2-8	3-3	3-8	4-3	4-8
1-4	1-9	2-4	2-9	3-4	3-9	4-4	4-9
1-5	1-10	2-5	2-10	3-5	3-10	4-5	4-10



引き渡し場所へ移動

時間	14:20	14:40	15:00	15:20	15:40	16:00
学年	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6
学年	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6
学年	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6
学年	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6
学年	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6
学年	6-1	6-2	6-3	6-4	6-5	6-6

引き渡しのタイムテーブル

【手順①】

- ・児童情報と s アカウントを紐付けた管理台帳を作成し、バーコード入りのカードを作成する。
(市教委の助言を受ける)

【手順②】

- ・バーコードの入ったカードを事前に保護者に配付し、引き渡し当日持参するか、スマホへの写真保存を推奨した。

【手順③】

- ・受付を 6 カ所用意した。保護者は持参のカードまたはバーコード写真を提示。それをリーダーで読み込む。

【手順④】

- ・バーコードが認証されると、児童氏名が各教室の大型画面に表示され、児童は引き渡し場所へ移動。

3 成果と今後の課題等

- 本校にとっては、初めて導入した「バーコードによる認証」だったため市教委の ICT 教育アドバイザーから多くの助言を受けながら進めていった。従来の iPad 画面からの呼びかけでは、全クラスに保護者の顔を提示するため、個人情報保護という点では課題があった。そこで今回のバーコード認証を取り入れることとした。
- 1 日目は、Wi-Fi 環境の不具合等、課題が発生してしまい、従来の認証に切り替えることとなった。「訓練準備」の中に「引き渡しのタイムテーブル」の共有とともに、機器の操作確認や Wi-Fi 環境確認も必要であった。
- 2 日目は、「バーコードでの受付」に切り替えたため、受付時間の短縮につながり、受付での保護者の長い列は解消された。
- バーコード認証の場合、機器の設定等に時間や人員が必要なことから学級単位での引き渡しの場合は、従来型の引き渡しを取り入れている現状がある。今後スキルを全教職員が身に付け、実際の使用を重ねその便利さを実感することで「バーコード認証」のもつ可能性がさらに広がると感じた。



取組名	地域の危険箇所合同点検		
特徴	教職員・保護者・地域が協働した安全点検		
学校名	山口市立名田島小学校	期日	令和4年5月7日(土曜日)他

1 ねらい

- 学校や保護者、地域の組織（名田島地区青少年健全育成地区民会議）が連携して、地域内の危険箇所を確認し、通学時や地域での生活の際の安全に対する意識を高める。
- 確認された危険箇所をもとに「名田島地区危険箇所マップ」を作成し、児童・保護者の指導や啓発に役立てる。

2 概要

(1) 危険箇所合同点検

- 日時 令和4年5月 7日(土曜日) 13:30～15:00
令和4年8月20日(土曜日) 13:30～15:00
- 内容 名田島地域の危険箇所の見回り及び清掃作業
(グループに分かれて活動)
- 参加者 名田島地区青少年健全育成地区民会議委員 名田島小学校保護者・教職員



〈危険箇所点検①〉



〈危険箇所点検②〉



〈清掃作業〉

(2) 危険箇所情報の共有・周知

- 教職員への情報提供・共通理解
 - ・「名田島地区危険箇所マップ」の作成
 - ・危険箇所の写真を見ながら注意事項を共通理解（職員会議）
- 児童への周知・指導
 - ・全校朝会（6月2日）での周知
 - ・一斉下校時の注意喚起



〈全校児童への周知〉



3 成果と今後の課題等

- 地域の方から直接、危険箇所を案内・説明していただいたことで、本年度初めて点検に参加された保護者や転入してきた教職員も、校区内の危険箇所を詳しく知ることができた。今後もより多くの参加が得られるよう、働きかけ方を工夫していきたい。
- 名田島地域には水路やため池など水の事故につながりかねない箇所や、人通りの少ない箇所が多く、登下校や遊びの際に注意が必要であることを、梅雨入りの時期や夏休み前の時期にあわせて全校児童に指導でき、生活安全への意識の向上につながった。
- 危険箇所の写真資料を整理しておき、毎年点検の後に更新しながら児童への指導に役立てたり、このたび作成した「危険箇所マップ」を保護者への周知や児童の地域学習の際に役立てたりするなど、収集した資料の効果的な活用の仕方を工夫していく必要がある。

取組名	実物のトラックを使った交通安全教育		
特徴	実物のトラックを使い実際の場面を想定した交通安全意識の向上		
学校名	防府市立富海小中学校	期日	令和4年5月17日（火曜日）

1 ねらい

- 中学年児童を対象として、トラック輸送に対する物流の学習や実物のトラックを使った交通事故防止のための交通安全教室を通して、交通安全意識の向上をはかる。

2 概要

(1) 体育館にて(10時30分～11時)

- ・トラックの物流教室
- ・山口県交通安全学習館講師による交通安全指導



トラックの物流教室



山口県交通安全学習館講師による交通安全指導

(2) 運動場にて(11時15分～11時45分)

- ・トラックの運転席から見た視野・死角について
- ・トラックの巻き込みの危険性について



トラックの運転席から見た死角について



内輪差で生じる巻き込みの危険性についての学習

3 成果と今後の課題等

- まず、児童は、日本の物流の9割がトラック輸送であることを知り、児童の身近なところで多くの大型トラックが走っていることを実感できた。その上で、公道で自転車を使い始めた児童に対し、具体的な運転場面を想定しながらどこを走るのか実際に考えさせてもらったことはよかった。また、物流を支えるトラックも必要なもので、道路を共有しお互いに譲り合っていくことが大切であることも学ぶことができた。
- 実際にトラックの死角に入った友達を、運転席から目視することが難しいことを、本物のトラックの運転席に座って実感することができた。
- 内輪差については、多くの児童が知らなかったため、実際に運動場で運転してもらったことで、危険であることを実感できた。
- 児童は、この学習で実感的に学べたことは大きい。しかし、校区に国道があり、狭い道でも車の行き来が多い時間帯もある。機会を捉えて引き続き指導を続けていきたい。

取組名	応急手当講習受講 救命入門コース（小学生）		
特徴	授業における安全学習、AEDを使用した応急手当講習会		
学校名	防府市立右田小学校	期日	令和4年6月6日（月曜日）

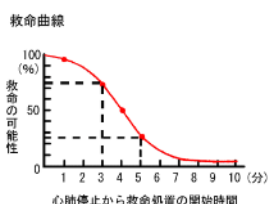
1 ねらい

- 救命の正しい知識、周囲の大人を呼ぶことの大切さを知り、正しい心肺蘇生法の手技習得を目指す。
- 『今の自分にできること』に意識し、正しい救命の知識と手技を知り、バイスタンダー（発見者、傍観者）として社会復帰率向上を目指す。

2 概要

(1) 心肺蘇生法とAEDの必要性

- ・ 消防署の職員による救命率、心室細動の説明



心肺停止からの救命率は、救命処置が3分で開始されると75%ですが、5分経過すると25%になります。

「心肺停止から心肺蘇生を行うまでの時間の救命率」



「心室細動と正常な心電図の波形」

(2) 消防署の職員による心肺蘇生法、AEDの使用法の実演



「バイスタンダーとしての役割」



「AEDを使用した心肺蘇生法」

(3) グループ別で心肺蘇生法の体験



「グループ別体験①」



「グループ別体験①」

3 成果と今後の課題等

- 消防署の職員による講義を聞き、実演を見ることで救命することの大切さを感じることができた。また、心肺蘇生法を体験することで、難しさを実感し、命を救命することの重みを感じることができた。特に助けを呼ぶことの大切さに大きな学びを得ていた。
- 年に1回わずかな時間であるため、救急現場に居合わせた場合の行動（バイスタンダー）としての役割を長期にわたって身につけることが難しいと感じる。日常的にKYT学習や応急手当等、バイスタンダーを取り入れた学習を行えるとよいと考える。

取組名	地域の防災士会と連携した集団下校・危険箇所点検		
特徴	保護者・地域・行政との連携		
学校名	防府市立松崎小学校	期日	令和4年6月8日（水曜日）

1 ねらい

- 学校や保護者、地域、関係機関が連携して通学路の危険箇所を確認し、通学路の災害安全等に対する意識を向上する。
- 確認された危険箇所をもとに、安全マップの加筆・修正を行う。

2 概要

(1) 災害発生時の避難場所としての施設利用について

- ・ 防府市防災危機管理課及び防府市防災士会と防災倉庫内の物品の状況把握
- ・ 災害発生時の学校施設の使用について施設の使用範囲等を確認



「防災危機管理課・防災士会との協議」



「防災倉庫・学校施設の確認」



「防災倉庫内の様子」

(2) 通学路危険箇所点検（見守り隊、PTA、防災士会との合同集団下校）

- ・ 通常の集団下校に同行する見守り隊及びPTA環境補導部員に加えて防災士会メンバー6名が、児童の集団下校に同行
- ・ 災害時を想定して、増水箇所や危険箇所を児童と確認しながら下校
- ・ 確認された危険箇所をもとに、安全マップに加筆・修正



「集団下校の様子①」



「集団下校の様子②」



「集団下校の様子③」

3 成果と今後の課題等

- 学校・保護者・地域に加えて防災士会が一緒になって合同点検することで、より専門性の高い視点をもって、通学路の災害時危険箇所を再確認することができた。また、校区内の安全マップの更新にもつながった。
- 今後も学校の安全・安心を高めるために、何事にも学校だけでなく、学校運営協議会をはじめとした地域や専門機関の力も借りて取組を進めていくことが重要であると感じる。

取組名	地区別下校		
特徴	緊急時に備えた地区別下校の訓練		
学校名	防府市立中関小学校	期日	令和4年 6月 8日 (水曜日) 10月12日 (水曜日)

1 ねらい

- 風水害や不審者出没などによって、緊急に地区別下校の必要がある場合に備え、安全に集合したり、地域の方々と共に安全に下校したりすることができるようにする。

2 概要

(1) 荒天時等に備えた緊急地区別下校(6月8日)

- 放送を聞き、運動場へ登校班ごとに集合
 - ・登校班の班長が1年生を連れていくように放送をかけることで、1年生が迷わずに登校班のところに行けるようにする。
- 児童は、教員、保護者、地域の方々と一緒に下校し、通学路周りで危険な箇所を確認する。



(1年生を迎えに行く班長)



(運動場に班ごとに並ぶ児童)

(2) 不審者出没等に備えた緊急地区別下校(10月12日)

- 地域の方と一緒に一斉下校を行う
 - ・児童は、教員、保護者、地域の方々と一緒に下校し、登下校のきまりや、暗い道、人通りの少ない箇所を確認するように全体指導した。



(登校班で下校をしている様子)



(横断歩道付近の様子)

3 成果と今後の課題等

- 回数を重ねるごとに、運動場に集合するまでの時間や、下校開始までの時間を早くすることができた。
- 登校班で帰るだけでなく、教員、地域の方々と一緒に帰ることで、登下校のルールや通学路の危険箇所を一緒に確認することができた。
- 全校が一斉に移動を始めるため、運動場に出るまでに話をしながら出る児童がいるので、前日までにクラスで訓練の目的を確認する等、非常時に備えた訓練であるという意識を高めていきたい。
- 児童一人ひとりが、一斉下校の際には、自分がどこに帰るのかしっかりと確認し、素早く整列、下校開始ができるようにしていきたい。

取組名	地域力を活用した防災対応能力の向上を図る防災学習・防災訓練の実施		
特徴	学校・家庭・地域が連携した防災学習・防災訓練		
学校名	宇部市立神原小学校	期日	令和4年10月28日(金曜日)

1 ねらい

- 全学年で、それぞれの発達段階に応じた防災学習を行うことで、防災について知り、自分の身を守る方法を考えさせる。
- 児童の防災学習の様子を、保護者の方にも参観していただくことで、家族で防災について考える機会を設け、防災への意識を高めていく。
➡今年度は、参観日が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止になった。

2 概要

(1) 各学年の取組（参観日実施予定内容）

- ・1年生…水消火器体験／防災グッズ（紙コップ）製作（神原校区自主防災会／消防署）
- ・2年生…防災についての話（神原校区自主防災会）
- ・3年生…避難所開設について／ダンボールハウス設置体験（市防災危機管理課）
- ・4年生…防災の話（市出前講座：市防災危機管理課）
- ・5年生…防災の話（出前講座：下関気象台）
- ・6年生…水育／給水車体験（市水道局）

(2) 地域防災学習（5年の取組）

神原地区自主防災会の防災アドバイザー、宇部市市民活動課地域支援係の方と一緒に校区内の避難所や避難場所を実際に歩いて回り、どのような時に利用するのか、備蓄品には、どのようなものがあるのかを学んだ。交差点等では、交通安全推進委員の方が立ってくださり安全面での配慮もしていただいた。



【備蓄品倉庫の説明】



【海拔表示の確認】



【公衆電話体験】

3 成果と今後の課題等

今年度は、参観日に実施することができなかったが、今後、学年で必要に応じて、3年生の避難所開設等、授業の中で実施していく予定である。

5年生の地域防災学習では、地域を回ることで、実際に避難場所を知るなど、学ぶことも多かった。備蓄品倉庫では、アルファ米等の食料が備蓄されていたり、井戸水で飲料水を確保されたりすること、また、校区内に海拔表示が111枚もあることを知り、安全に対する取組がされていることが理解できた。また、非常時に家族と連絡を取るために、公衆電話の使い方についても実際に体験した。専門家の視点で話をしていただくことができたので、子どもたちの防災意識を高めることができた。

例年実施している「防災学習参観日」と「地域防災学習」の活動は、地域の方や保護者と一緒に防災について考えるよい機会なので、今後も継続していきたい。

取組名	「ポケドボ」で防災学習（5年生「総合的な学習の時間」）		
特徴	ポケドボカードゲームで遊びながら、身近にあるインフラの種類やその役割について考える。		
学校名	宇部市立原小学校	期日	令和4年9月13日（火曜日）

1 ねらい

- インフラが自分たちの身近にあることに気づき、その大切さ（生活を支え、災害から守ってくれている）を学ぶ。

2 概要

(1) インフラについて学ぶ

- 身近な交通インフラの紹介
- 2017年の九州北部豪雨におけるインフラの役割



(2) ポケドボカードゲームで遊ぶ

- ポケドボとは「ポケ」とサイズの「ドボ」ク（土木）のこと。
- 社会資本や自然災害を記載した手札を使い、防災対策の必要性をゲームを通して学ぶ。
- 台風や土砂崩れなどの災害カードが襲うインフラカードを、応急復旧カードと事前対策カードで生き残らせるルール。



(3) 宇部市のインフラを探す

- 地図で宇部市のインフラを探し、付箋を貼っていく。
- 空港（山口宇部空港）や鉄道（宇部線、小野田線）、橋（厚東川新橋）、高速道路（山陽自動車道）等、宇部市にあるインフラとその役割（防災）について考える。



(4) オリジナルポケドボカードを作り、紹介し合う

- 宇部市を災害に強いまちにするために、ご当地版オリジナルポケドボカードを作成し、紹介し合う。



3 成果と今後の課題等

- インフラを知り、地震や洪水などの災害がそれぞれのインフラに与える被害を想像することで、事前対策や応急処置の重要性を再確認するよい機会となった。
- 宇部市のイベントに、有志児童が「ポケドボ」ワークショップを出展した。訪れた市民の方にポケドボカードゲームを紹介し、交流するなど、防災に対する意識がより高まった。
- 今後は、保護者や地域の方とともに取り組む防災学習や情報発信の仕方について考えていきたい。

取組名	着衣水泳		
特徴	消防署・地域との連携		
学校名	美祢市立豊田前小学校	期日	令和4年7月13日（水曜日）

1 ねらい

体験学習を通して、水の事故に遭遇した際の自分の命を守る対処の仕方、助け方について学ばせる。

2 概要

消防署より2名来校いただき、日常生活の中で水の事故から命を守る方法を指導していただいた。指導者の内1名は、本校と地域をつなぐ組織である「前小ネットワーク協議会」の会員であり、児童にも馴染みのある方である。



ペットボトルを使った
浮き方（一・二年生）



ペットボトルを使った
浮き方（一・二年生）



ペットボトルを使った
浮き方（四年生）



ペットボトルを使った
浮き方（五・六年生）



救命具を使って救助する
体験（五・六年生）



救命具を使って救助する
体験（五・六年生）

3 成果と今後の課題等

- 毎年体験を積み重ねることによって浮き方が上手になるとともに、そのことが自分の命を自分で守ることにつながることを自覚するようになっている。
- 何よりも自分の命、人の命の大切さを学ぶよい機会となっている。
- 高学年児童は、保護者といっしょに救急救命法も学習しており、着衣水泳と合わせた学習として仕組むとより効果的であると考える。



保護者と高学年児童対象の
救急救命法講習

取組名	一次救命処置について講義及び演習		
特徴	生徒及び教職員が一次救命処置について学ぶ		
学校名	平生町立平生中学校	期日	生徒 令和4年5月31日（火曜日） 教職員 令和4年8月23日（火曜日）

1 ねらい

- 事故やけがなどで万が一心臓や呼吸が停止している人を目の前にしたときに、応急の処置として一次救命処置（心臓マッサージ及び人工呼吸の仕方やAEDの使用法）等について、実際に訓練人形等を用いて学ぶ。

2 概要

(1) 講習及び演習について

- ・新型コロナウイルス感染症対策として、体育館で3密を回避しながら生徒及び教職員を対象とした救急法講習会を異なる日時で実施した。

(2) 生徒対象

- ・本校1年生を対象に、日本赤十字社の「児童・生徒のための救命手当短時間プログラム」を活用し、少人数で実践的なトレーニングを行った。



(心肺蘇生法についての講義)



(生徒による胸骨圧迫体験)

(3) 教職員対象

- ・夏季休業中の職員研修会の時間を使って、柳井地区広域消防組合職員の方々を講師に招聘し、講義・演習を行った。教職員は心肺蘇生法・AEDに加えて、エピペン®の使用法についても研修した。



(講習会での様子)

3 成果と今後の課題等

- 参加者全員が一次救命処置の体験を行うために、時間設定や人数配分を適切に行った。もしものときに、生徒及び教職員がバイスタンダー（心停止などの救急の現場に居合わせた人・発見した人）として適切な行動ができるようになったと考える。
- 本校では、年間を通して安全教育及び安全管理の充実に向けた取組を定期的に行っているが、今後は新型コロナウイルス感染症の流行状況を考慮しながら、保護者・地域住民が参加できる活動にすることをめざし、地域全体で安心・安全な学校づくりに向けた各種の取組を充実させていきたい。

取組名	VR動画を活用した体験型被害防止教室		
特徴	山口県警察本部と下松警察署との連携		
学校名	下松市立久保中学校	期日	令和4年6月6日(月曜日)～11月28日(月曜日)

1 ねらい

- 学校区内の危険箇所を把握するとともに、声掛け事案の対処法や自転車盗難被害防止、交通事故防止について理解する。

2 概要

(1) オリエンテーション

- ・山口県警察本部より事業の説明
- ・山口県立防府高等学校生徒会作成のVR動画の視聴
- ・萩市立須佐中学校生徒会作成のVR動画の視聴
- ・本校での第2学年による総合的な学習の時間でのVR動画作成の全体像について
- ・「声掛け事案」「自転車盗難被害防止」「交通事故防止」の分担決め



オリエンテーション

(2) VR動画作成

- ・各学級に分かれて自分たちの生活を振り返り、考えられる事案を具体的に挙げる。
- ・考えられる事案の中から、作成する事案を決定する。
- ・VR動画作成の役割分担をする。
- ・脚本を作り、動画作成の準備をする。
- ・動画撮影を行う。
- ・動画の編集を行う。(山口県警察本部が実施)



VR動画撮影

(3) 体験型教室の開催

- ・制作(撮影)動画と解説を織り交ぜる方法での被害防止教室を開催する。
- ・代表生徒にVRゴーグルを装着させ、プロジェクターに映し、他生徒はその映像を確認する。
- ・本映像に関する事例の感想、問題点等について意見交換する。

(4) 学校安全保健委員会の開催

- ・体験型教室の授業参観を行い、その後山口県警察本部と下松警察署の方を交えて学校安全保健委員会を開催する。
- ・体験型被害防止教室について討議する。
- ・校区内の危険箇所について討議する。
- ・地域の方や保護者の方からの感想や意見を聞く。



体験型 防犯・交通安全教室

3 成果と今後の課題等

山口県警察本部や下松警察署と連携した事業であったので、警察に対する理解が深まり、今まで以上に生徒が警察について興味や関心をもつことにつながった。

VR動画作成のために、自分たちの生活や校区内の安全について考えることにより、安心安全に対する意識が高まった。

学校安全保健委員会と連携させることにより、地域の方や保護者の方にも生徒の安心な生活や校区内の安全の確保について関心をもってもらえた。



取組名	教職員研修（食物アレルギー対応・一次救命措置）の実施		
特徴	全教職員が心肺蘇生法やAED・エピペンの使い方について演習を行う。		
学校名	周南市立富田中学校	期日	令和4年4月6日（水曜日） 令和4年8月24日（水曜日）

1 ねらい

全教職員を対象とした講義や演習を通して、第一発見者となった場合に、迅速かつ適切な対応がとれるよう教職員の安全意識の向上と危機対応力の強化を図る。

2 概要

- (1) 場所 本校 第一ホール、武道場他
- (2) 講師 周南市西消防署職員4名
- (3) 対象者 富田中学校全教職員
- (4) 講義・演習（シミュレーション研修）
 - ① 食物アレルギー対応
 - 食物アレルギーについての理解
 - エピペンの保持者と保管場所の確認
 - エピペンの使い方の実技研修
 - 緊急時の対応
 - ② 一次救命措置
 - 心肺蘇生法の実技研修
 - AEDの使い方の実技研修
 - アクションカードの活用とチームでの動き方
 - ③ 生徒会が制作した動画の視聴

3 成果と今後の課題等

- 本校では、これまでの経験を踏まえ、人事異動で新たな教職員組織となった4月初めに、食物アレルギー研修を実施している。新学期のスタートに合わせて、危機対応の在り方を全教職員で共有するとともに、新チームの学年部での連携力の向上に大いに役立っている。
- 研修の振り返りから、アクションカードの活用とAEDの複数台配置の必要の意見が挙げられ、改善を図った。あわせて、保健委員会の生徒が救命措置の動画を制作し、全校生徒が視聴したり、学校保健安全委員会で取組の発表を行ったりして、学校安全に対する意識の向上を図っている。
- 今後は、教職員のみならず、生徒への意識化を図るために、生徒会執行部及び専門委員会を活用した研修機会を確保し、正しい知識と適切な対応を身につけていく必要がある。



↑ ①食物アレルギー緊急対応

↓ ②心肺蘇生法・AEDの使い方



取組名	小郡中学生と語ろう		
特徴	地域との熟議、連携		
学校名	山口市立小郡中学校	期日	令和4年5月26日（木曜日）

1 ねらい

- 学校と地域の共通の課題である「交通安全」について、中学生として小郡地域で何ができるかをテーマに地域の方々と熟議を行い、小郡中学校生徒総会において、具体的な地域貢献活動を決めて実行することで、地域との連携を深め、主体的に地域活動や地域貢献に参加する意欲や態度を育む。

2 概要

(1) 趣旨説明

- ・小郡中学校生徒会より今回の熟議についての趣旨を説明する。



「生徒会長による趣旨説明」

(2) 地域の方々（おごおり地域づくり協議会）との熟議

- ・各グループで危険箇所をタブレット端末のGoogleマップで確認し、危険回避のためにどのような取り組みが必要か話し合う。



「熟議の様子①」



「熟議の様子②」



「熟議の様子③」

(3) 熟議のまとめ

- ・各グループから話し合いの結果を、タブレット端末を活用して報告し、共有する。



「報告の様子①」



「報告の様子②」



「熟議の様子③」

3 成果と今後の課題等

今回の熟議を通して、地域と生徒たちで地域内の様々な危険箇所を確認でき、地域・学校の「交通安全」を実現するためにどのようなことをすべきかアイデアを共有することができた。そして、その後、小郡中学校生徒全員で「交通安全」について考え、具体的な「交通安全」活動に結びつけるために、生徒総会での議題に挙げ、全校生徒で話し合った。結果、生徒の交通安全に関する意識の向上がみられ、学校への交通マナー等に関する苦情の数が激減している。



「生徒総会の様子」

今後は、地域と協働した「交通安全」活動を実現し、より多くの生徒が地域の方々と一緒に取り組むことによって、主体的に地域貢献に参加する意欲や態度を地域と共に育てていきたい。

取組名	食物アレルギー対応研修		
特徴	職員によるデモンストレーションを交えた実践的研修		
学校名	防府市立国府中学校	期日	令和4年9月21日（水曜日）

1 ねらい

- エピペン所持の生徒のアレルギーについて、その原因物質や、アレルギー症状について詳しく研修することにより、生徒理解を深め、教職員の危機管理を高める。
- デモンストレーションを交えた実践的研修を行うことにより、当事者意識を高めるとともに適切な対応について理解を深め、自信をもってエピペン投与をはじめとした対応ができるようにする。

2 概要

(1) 食物アレルギーに関するヒヤリハット記録の確認

- ・養護教諭作成の資料により、今年度発生した食物アレルギーに関するヒヤリハット記録を確認する。
- ・それぞれの記録について、課題や改善策を確認する。

(2) エピペン処方生徒の確認

- ・本校でエピペンを処方されている生徒について、処方薬やアレルギー物質、アレルギー対応を確認する。

(3) エピペン投与のデモンストレーション

- ・アレルギーのある生徒や担任教師、級友や他の職員に扮した教職員が、給食後に苦しんでいる生徒を発見してエピペンを投与するまでのデモンストレーションを行う。
- ・デモンストレーションの進行に合わせて、養護教諭の説明を加え、対応する上でのポイントを整理する。



(4) トレーニング用のエピペンを使った、エピペン投与の演習

(5) 緊急時の対応についてのまとめ

- ・緊急時の対応について、フローチャートやチェックリストを用いてまとめながら、研修の振り返りをする。

3 成果と今後の課題等

(成果)

- ・本校のヒヤリハット事例や、アレルギー対応生徒について、改めて丁寧に把握することにより、アレルギー対応の必要性に対する意識が高まり、生徒理解が深まった。
- ・職員によるデモンストレーションを取り入れることにより、興味・関心を惹き付けながら参加意識の高い研修を行うことができた。

(課題)

- ・大切な研修であるが、実際に必要になることは稀な内容でもあるため、定期的な学び直しにより、定着の向上を図る必要がある。
- ・より多くの職員がデモンストレーションに関わると、さらなる当事者意識の高揚が期待できる。

取組名	自転車危険マップづくりとルール啓発		
特徴	大学、NPO法人、警察、地域との連携		
学校名	宇部市立藤山中学校	期日	7月19日(火曜日) 自転車安全講習 7月27日(水曜日) ワークショップ① 8月4日(木曜日) ワークショップ②

1 ねらい

- 地域や関係機関が連携して自転車利用の危険箇所を確認し、自転車利用生徒の交通安全等に対する意識を向上する。
- 確認された危険箇所をもとに、自転車危険マップを作成する。

2 概要

(1) 自転車安全講習と自転車危険箇所の共有（全校集会）

- ・うべこまち（NPO法人）と山口大学の村上教授による自転車安全講習
- ・生徒は自治会ごとの班に分かれ、自転車危険箇所の共有とアンケートの実施



【自転車危険箇所の共有①】



【自転車危険箇所の共有②】

(2) ワークショップ①

- ・生徒、地域、警察、NPO法人による自転車危険箇所の調査
- ・自治会ごとにあがってきた危険箇所を現地で確認



【危険箇所の現地調査①】



【危険箇所の現地調査②】



【危険箇所の現地調査③】

(3) ワークショップ②

- ・調査結果の共有
- ・プレゼンテーションの作成



【調査結果の共有①】



【調査結果の共有②】



【プレゼンテーション】

3 成果と今後の課題等

- 学校・地域・NPO法人・大学・警察が協働して、自転車の危険箇所を確認することができたことにより、きめ細やかな自転車危険マップづくりにつながった。
- 実際に完成した「自転車危険マップ」や「プレゼンテーション」を共有することにより、学校、保護者、地域、関係機関等と連携・協働して子供たちの安全を守っていくという気運を醸成していく必要がある。

取組名	専門家等と連携した防災ワークショップ		
特徴	気象予報官による防災に関する専門的なワークショップの開催		
学校名	萩市立田万川中学校	期日	令和4年10月6日（木曜日）

1 ねらい

- 大雨等の防災気象情報が発表された際、どのタイミングでどのように行動するかなどの避難行動等について話し合いを行い、避難に関する事前情報を的確に理解する力や早めに避難行動に移る行動力の育成を図る。
- ハザードマップの見方や活用方法を理解し、災害時にすばやく自分の命を守る行動がとれるようにする。

2 概要

(1) 自然災害から身を守るために（講話）

- 山口・島根豪雨災害（H25.7.28）の状況確認
 - ・降水量や被害状況について
- 大雨災害の危険性について（VTR）河川の増水、崖崩れ、土石流の発生
- 身を守る方法について
 - ・災害リスク（危険度）を知るため、ハザードマップを活用したり気象情報から警戒レベルを把握したりして安全な行動を選択する。
 - ・安全な行動をとるため、適切な避難行動に関わる知識を身につける。
 - ・ハザードマップの見方や活用方法を理解し、災害時にすばやく自分の命を守る行動がとれるようにする。



「指導講話の様子」

(2) 防災ワークショップ（実習）

- 大雨予報の事前情報から考えられる適切な対処の仕方をグループで考え、どのような行動がよいかを発表し合う。
- 各グループに分かれ、大雨予報の事前情報から考えられる適切な行動について意見を出し合い、対応策を考え、グループごとに発表する。



「ワークショップの資料」



「話し合いの様子」



「発表の様子」

(3) 防災ワークショップ（まとめ）

- ・各グループの発表から、災害から身を守るためには日頃からいざという時に備えて、避難経路の確認や非常持ち出しの袋などの準備が必要だということが理解できた。

3 成果と今後の課題等

(1) 成果

- ・自然災害の恐ろしさを学ぶことで、緊張感をもって意欲的にワークショップに取り組むことができた。
- ・気象情報や災害安全情報から、自ら安全な避難経路を選び、静かに落ち着いて避難所まで行く道筋を考えることができた。
- ・日頃からの防災危機管理の大切さを改めて感じられる機会になった。

(2) 課題等

- ・今回、専門家によるアドバイスとして、普段から安全な行動をとるためにはどのような心構えや準備が必要なのかを確認する機会となった。今後も不測の事態に備えていきたい。
- ・本校の地域は過去、大雨による災害を受けているが、年月の経過により危機意識が薄れてきているため、もう一度防災に備える意識の高揚を図りたい。

取組名	避難訓練及び防災研修の実施		
特徴	予告なしの火災避難訓練及び専門家（防災士）による防災教室		
学校名	長門市立菱海中学校	期日	令和4年11月2日（水曜日）

1 ねらい

教職員

- 非常災害に対応した、適切な避難指示と生徒の安全確保・確認ができる。
- 通報や初期消火訓練などを通して、消防施設の使用方法や各係の仕事内容を確認する。
- 防災に関する基礎的な知識を学ぶ。

生徒

- 非常災害に際しての基本行動を身に付ける。「静かに、安全に、速やかに」避難する。
- 災害に対する生徒の防災知識を深めるとともに防災意識の高揚を図る。
- ◎ 自他の生命・身体の安全を守ることの重要性を理解する。
- ◎ 不測の事態に対して、約束を守って行動できる態度を育てる。

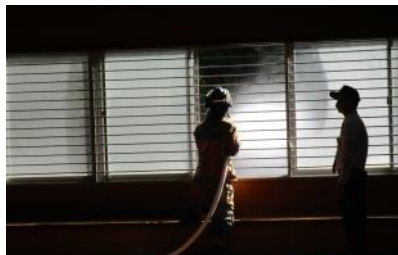
2 概要

(1) 避難訓練 … 想定災害：火災（昼休み、事務室前に放火による火災発生）

- ・避難誘導訓練（生徒、教職員）
- ・通報連絡、初期消火等対応訓練（教職員）
- ※ 長門消防署西署職員による放水作業、火災時の消防職員の動きの確認等
- ※ 消防署職員、学校安全サポーターによる講評



避難誘導訓練



放水作業



講評

(2) 防災教室【長門市防災危機管理課・防災士による防災教室】

- ・近年の長門市の災害について
- ・防災に対する備えや対策について



防災教室

3 成果と今後の課題等

- 昼休みの火災発生ということで実施したが、対応できる教職員が少なく、初期消火や生徒の誘導、校内放送での指示など、限られた人員で何を最優先して対応すべきか考えさせさせた。
- 避難訓練については、西署職員の方も火災さながらの出勤をしてくださり、臨場感のあるものとなり、生徒は緊迫感のある中で取り組むことができた。
- 防災についても、市の現状を踏まえたお話であり、日ごろの防災意識を高く持つ必要性を感じさせる内容だった。
 - ※ 火災避難訓練の実施時間帯としては、昼休みのもっと早い時期に行っているいろいろな場所や場面での生徒の対応を見ることができるとよかった。
 - ※ 二つの内容を1日日程で行ったので時間的に余裕がなかった。今後は、十分な時間を設定し、避難で逃げ遅れた生徒やけがをした生徒がいた想定で避難訓練を実施したり、防災研修でワークショップ等を取り入れたりして、生徒の対応力を高めるとともに興味や関心を高め主体的に取り組める内容にしていきたい。

取組名	避難訓練と防災訓練		
特徴	行政・保護者・地域との連携		
学校名	和木町立和木中学校	期日	令和4年11月22日(火曜日)

1 ねらい

- 想定される地震・津波に対する避難訓練を行うことを通して、自分の命を守る行動の意識(自助)と、みんなで避難する態勢(共助)を確認理解する。
- 自分の命を守り、人々の生活に寄与できる中学生であるために防災訓練を体験し、防災知識の習得をする。

2 概要

(1) 避難訓練(地震)の実施

- ・学級での事前指導
- ・体育館へ避難(体育館でシェイクアウト訓練)

(2) 防災訓練(自主防災)の実施

- ・防災士による講話
- ・学校が避難所になったと想定して考えられることについてグループワーク
- ・各グループによる発表



防災士による講話

時刻	段階	訓練内容・留意点
13:25	発生前	学級での指導 クラス担任 各クラスで地震等について指導 ①訓練の目的 ②避難時の注意事項 ③訓練の概要 お・は・し・も
13:35	地震発生	地震発生 校内放送 1(教頭) ・訓練、訓練。緊急地震速報がありました。机や椅子の下にもぐり、頭部を守ってください。もぐるものがない場合、手で顔と頭部を守ってください。
13:38	津波による避難行動	津波警報発令 校内放送 2(教頭) ・訓練、訓練。津波警報が発令されたという情報が入りました。生徒の皆さんは、直ちに、安全に注意し無言で速やかに体育館に避難してください。 担任の指示 体育館に避難し クラスごとに並んで集合(人員点呼→担任⇒学年主任⇒教頭⇒校長)
13:45		避難完了
13:50	講話	講話(吉川さん) (準備物:プロジェクター、スクリーン) ・中学校が避難所になった場合、中学生が防災リーダーとして活躍してほしい ・防災上の心構え等
14:20	休憩	
14:30	クイズ	防災〇×クイズ(女津摩さん) 防災導入(全員参加のクイズ) ・出席番号のグループをつくる(30グループ) ・31番以降は、欠席者の番号に入る。 当日31名以上の出席がある場合、クラス内で2人グループをつくる。
14:40	グループワーク	グループワーク(幸坂さん) リアルミニHUG(避難所運営ゲーム) ・準備物:校地見取り図(大判用紙)×30、付箋(3色)×300、ペン、新聞紙、養生テープ×10 ○実施方法の説明 (5分) ・学校敷地図 }に各グループごとに話し合い記入 ・校舎配置図 } ・教室配置図 } ○どんな人がどのくらい来る? (5分) 例:町民200人、旅行者15人、企業に出張者25人 など ○どのように区分けしたらよいか? (5分) 例:自治体、家族など ○どこに入れる? (5分) 例:体育館、使える教室 ○各グループまとめ (5分)



リアルミニHUG(避難所運営ゲーム)の様子

3 成果と今後の課題等

- 行政・保護者・地域が一堂に会して防災訓練することで、自主防災の意識向上と学校が避難所になった際の運営の仕方を確認することができた。また、危機管理について当事者意識の向上につながったと感じた。
- 今後、小学校と中学校が協働で通学路のKYT資料を作成していく上で、防災意識のことも考慮した視点で検討をするよい機会となった。
- 地元の防災士といのちを守る防災危機管理協会の防災士も講話を行い、和木町教育委員会、和木町危機管理官、地元ケーブルテレビも入り、和木町を挙げての取組となった。
- 毎年実施の予定も示され、今後も、学校や関係機関等と連携・協働して子どもたちの安全を守っていくという機運を醸成していく必要がある。

取組名	安心・安全に過ごすために！		
特徴	地域や専門家との連携による安心・安全		
学校名	山口県立岩国総合高等学校	期日	令和4年10月～令和4年11月

1 ねらい

- J A F の交通安全指導員による交通安全教室を実施し、専門家から見た交通事故防止方法を学習し、交通安全に対する意識の向上を図る。
- 警察、自転車販売組合とタイアップして自転車点検を実施し、事故を防ぐ。
- 地域の防災対策研修会に参加し、防災についての意識を高める。
- 学校薬剤師による研修を実施し、感染症対策について考える。

2 概要

(1) 交通安全指導員による交通安全教室の実施

- ・ J A F の交通安全指導員により、事故の危険性について説明。
- ・ 右側通行と左側通行の事故率の違いや、どこに危険が潜んでいるのかなど、専門家から見た交通事故の防ぎ方を学習した。



交通安全教室の様子

(2) 自転車販売組合、警察による自転車点検

自転車点検の様子



- ・ ブレーキ、ライト、サドル等一台ずつ点検が行われた。
- ・ 盗難防止のためのツーロックも点検を行った。

(3) 灘地区防災学習会に生徒代表が参加

- ・ 生徒代表と教員が地域の防災学習会に参加。写真は土砂災害についての説明。
- ・ 本校及び他校からの生徒達はみんな真剣に話を聞いていた。



灘地区防災学習会

(4) 学校薬剤師による研修会

- ・ 学校薬剤師によるコロナについての研修会。保健委員が出席。



感染症対策研修会

3 成果と今後の課題

- 教員では気付きにくいことを専門家や地域の方から学ぶことができた。まだまだ学校の内外に危険は潜んでいる。少しでも生徒が安心・安全に過ごせるように、こういった研修を続けていきたい。

取組名	アクションカードを使用した避難訓練（火災を想定）		
特徴	教員・生徒との連携		
学校名	山口県立高森高等学校 山口県立高森みどり中学校	期日	令和4年5月2日（月曜日） 12：55～13：15

1 ねらい

- 生徒・教職員の防災意識を高め、「自助」「共助」「公助」についての認識を深める。
- 火災により体調が悪くなり、意識を失った生徒を救急搬送するという想定でアクションカードを使用して実施する。また、仲間との連携の仕方や教員への報告、AEDや担架などの設置場所の確認を全員で行う。

2 概要

(1) 避難訓練の事前の確認内容と取組

- ・避難訓練の実施前に教員（担任・副担任）を対象に説明を行う。
- ・各係はカードに書かれているミッションを実行する。
→受け取ったカードの指示に従い行動し、実行できたら各クラスへ戻り報告する。
- ・当日の確認と協議を行う。
→確認内容はアクションカードの通りに行動する。
- ・下記の通りの役割分担を行い、生徒への配慮を事前に依頼する。

高校担任が生徒に説明している様子



(2) 当日の動き

- ・役割：①現場リーダー（教員）、②119番通報係、③必要物品準備係、④誘導係、⑤救急処置係（6～8名）、⑥記録係、⑦連絡係、⑧救急車同乗係（教員）とした。
- ・手順：現場リーダーは担任もしくは副担任とし、救急車同乗係も教員とした。クラスに教員がいない場合は、今回に限り省略してもよいこととした。
- ・アクションカード配置場所：保健室、体育教官室、AED保管庫、職員室、プールとし、一番近いところへ取りに行くこととした。

3 成果と今後の課題等

- 教員・生徒が一堂に会して、避難後のシミュレーションを行うことで、課外活動中や授業中での事故が発生した場合にでも、誰でも対応することができる。
アクションカードは引き続き、校内の配置場所に常備し、活用する。
- 今回の避難訓練は、火災を想定した避難訓練であった。火災以外の訓練でも同様に、アクションカードを使って「自助」「共助」「公助」ができるかを確認する必要がある。
- アクションカードを使用することで、生徒・教職員の防災意識を高めることができた。今までの避難訓練は、避難することだけで完結している訓練であったが今回は避難訓練後の動きや確認を取り入れることで、充実した避難訓練が行えた。
- 今後は、避難だけではなく、保護者・地域、関係機関との連携・協働などの訓練も必要になると考える。子どもたちの安全を守り、災害現場からいち早く遠ざけ、安全に家に送り届けるところまで意識できれば、より良い避難訓練になるものと思われる。

中学生の活動の様子



取組名	危険予知訓練（KYT）授業		
特徴	グループワークを用いた安全教育の充実		
学校名	山口県立防府西高等学校	期日	令和4年10月25日（火曜日）

1 ねらい

- 生徒自身が日常の活動の中に潜む危険な現象や有害な現象を引き起こす危険要因に対する感受性を高め、解決していく能力を向上させる。
- グループ討議を通して危険に関する情報を共有化し、それを解決していく中から、危険のポイントと行動目標を定める力を高める。

2 概要

(1) KYTについての説明

- KYTの目的
- イラストKYTについての説明
- 指差呼称についての説明

(2) グループワーク

- 6人ずつのグループに分かれ、体育の授業についての2つのイラストを見て、この後起こりうる危険についてグループ討議を行った。



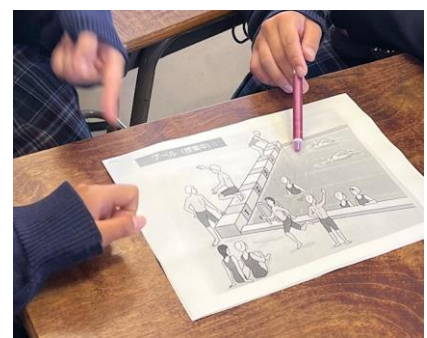
「指差呼称の説明」



「グループ討議の様子①」



「グループ討議の様子②」



「グループ討議の様子③」

(3) まとめ

- 各グループによる発表
 - ・ どのような危険がひそんでいるか
 - ・ 危険回避のための対策
- 防犯、交通安全、災害安全についてのKYTの紹介



「使用したイラスト」

3 成果と今後の課題等

- 少人数のグループワークを行うことで、活発な意見交換ができ、危険予知の重要性を認識することができた。また、他者の意見を聞くことで、新たな視点での気づきを得ることができた。
- 今までは気にならなかった日常に潜む危険を意識する視点をもつことができた。今後は今回詳しく紹介できなかった防犯、交通安全、災害安全についても紹介し、それを潜在意識に強く訴えて、危険に対する感受性や問題解決能力を上げていく必要がある。
- 生徒の日常における安全確認に関する行動を検証し、年度末に行う危機回避教室に向けた指導に反映させていきたい。

取組名	通学路危険個所での安全な通行方法		
特徴	グーグルアースの利用、立ち番指導		
学校名	山口県立防府商工高等学校	期日	令和4年10月20日（木曜日）

1 ねらい

- 通学路の危険箇所における地域の人からの見え方や視点を学び、自らの交通安全に対する意識と通学マナーの向上。
- 道路交通法を確認し、KYTを学び、日々の通学方法を改善する。

2 概要

(1) 通学路危険箇所説明

- グーグルアースを利用し、危険箇所における地域の方からの見え方や視点を知る。



自動車からの見え方1



自動車からの見え方2

(2) 道路交通法とKYT

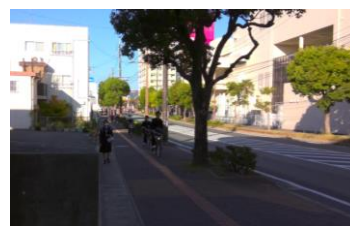
- 関連する道路交通法を確認する。
- 道路交通法に則った通学方法と誤った通学方法を比較し安全な自転車の乗り方を学ぶ。

(3) 通学時間帯の立ち番指導

- 通学時間帯に危険箇所において教員が指導を行うことで通学マナーの習慣化、危険箇所での安全確保



見通しの悪い交差点での危険予測



譲り合いの通行マナー

3 成果と今後の課題等

- 自他の安全を守るために法律があることに気付いた。
- 「譲り合いの精神」の大切さを学んだ。
- 長期休業明けや新年度になって新入生が入ってきたときなど定期的な指導を行う必要がある。

取組名	避難訓練（火災）		
特徴	本校の特徴に対応した避難訓練		
学校名	山口県立山口松風館高等学校	期日	令和4年10月3日（月曜日）

1 ねらい

- 防災意識の高揚を図るとともに、安全な避難行動の在り方を生徒に理解させる。
- 3部制の定時制課程と通信制課程を併せ持つ本校の特徴を踏まえ、非常時における人員配置や役割分担を確認するとともに、消火設備等の適切な取り扱い方を知る。

2 概要

(1) 状況に応じた避難の在り方の検討

- ・本校は午前部、午後部、夜間部の3部制の定時制課程と通信制課程を併せ持つという特徴がある。時間帯によって勤務に当たる教員数がまちまちで、生徒も全員が校内にいるとは限らないが、今回は全員が校内にいるという想定で避難訓練を計画した。
- ・本校にはグラウンドがないため、避難場所の確保が困難である。検討した結果、今回は本校駐車場を避難場所に設定した。

(2) 避難の実施

- ・消防署職員に来校いただき、訓練について講評及び改善点などをご指摘いただくよう依頼した。
- ・避難には内階段とともに、普段は使用しない外階段やポンプ室も使用した。生徒は訓練にまじめに取り組み、全員落ち着いて避難することができた。

(3) 消防署職員による指導

- ・消防署職員から、訓練について講評をいただいた。生徒が真剣に取り組んでおり、避難の手順等も概ね問題ないと評価していただいた。
- ・消火器の使用方法について、本校教職員が消防署職員に指導いただいた。



「消火器の使用訓練の様子」

3 成果と今後の課題等

- ・今回は午前部、午後部、夜間部の生徒が全員校内で活動しているという状況で避難訓練を実施した。通信制も含めて全教職員及び生徒が避難訓練に参加し、消防署への連絡の在り方や避難経路の確認をすることができた。
- ・今後は、避難場所の確保や通信制のスクーリング時の人員確認の在り方など、本校独自の課題に対応し、安全に避難ができる体制を整える必要がある。

取組名	教職員研修救急法講習会		
特徴	新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた赤十字救急指導員による短時間講習		
学校名	山口県立宇部中央高等学校	期日	令和4年8月10日（水曜日）

1 ねらい

- コロナ禍において、事故やけがなどで万が一心臓や呼吸が停止し倒れている生徒を目の前にしたときに、応急の手当てとして迅速かつ適切に、一次救命処置（心臓マッサージの仕方やAED「自動体外式除細動器」の使用法）等が行えるように、実際に訓練用人形等を用いて研修する。

2 概要

(1) 日赤本社作成の「一次救命処置（BLS）-心肺蘇生とAED-」の視聴

- ・ 赤十字救急法の普及、救命率の向上について
- ・ 傷病者の発見～AEDを用いた除細動まで

(2) 新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえた生徒・教職員の救急蘇生

- ・ 指導員による胸骨圧迫とAEDの使用法のデモンストレーション
- ・ グループ別に訓練用人形を用いて胸骨圧迫とAEDの使用法についての実技



(赤十字救急法、救命率の向上についての講習)



(指導者によるデモンストレーション)



(一人で胸骨圧迫)



(二人で胸骨圧迫+AED)

(3) 質疑応答

- ・ 胸骨圧迫を子どもに行う場合どのようにしたらよいか。
→1歳児未満の場合は三本の指で左右の乳頭を結んだ線の真ん中にある胸骨の少し足側を胸の厚みの1/3がくぼむくらいの強さで1分間に100回の速さで行う。
- ・ 傷病者が女性の場合、下着をとってAEDを行うのか。
→下着はとって行う。ただしその場合、救助に必要な人の目を避けるなどプライバシーに配慮する。またパッドを貼った後であればその上からタオルや衣類をかけても構わない。善意で人を助ける救命行為なので、法的にもそれで咎められることはない。
- ・ 救命行為でこれはしたらいけないという事はないのか。
→ない。胸骨圧迫では肋骨が折れる事もよくある。その他の事で、もしうまくいかなかったとしても、救助者は法律で守られるので責任を問われることはない。躊躇して何もしないことが一番いけない。

3 成果と今後の課題等

- 3年ぶりの救急法講習会であったが、これまで学んだ知識、技術を再確認するとともに、コロナ禍における救助法や新たな呼吸の確認法など以前とは違った技法を学べた。来年以降は年一回講習会を実施する。
- 今回の講習会参加率が全教職員の58%であったので、来年度は開催日程の調整と告知を早めることで参加率70%以上をめざす。

取組名	令和4年度第1回防災避難訓練（地震・土砂災害）		
特徴	ICTを活用し、「密」を減らす防災避難訓練の取組		
学校名	山口県立下関中等教育学校	期日	令和4年7月20日（水曜日）

1 ねらい

- 〔生徒〕 地震災害そのものや災害発生時の安全確保・避難の方法等について、正しい知識や基本的な対応の仕方を身に付ける。
- 〔教職員〕 災害発生時に、生徒を安全かつ臨機応変に避難させる方法を確認する。

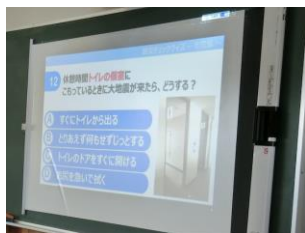
2 概要

(1) リモートクイズで地震災害や災害発生時の対応について考える

- 生徒は各教室で全校一斉の配信リモートクイズに解答する。（基本的な知識を問うものに加え「もし〜だったらどうする？」等の思考力・判断力を問う内容も含む。）
- 関連資料やデータをもとに補足説明を加えた解説を生徒に配付する。



リモートクイズの様子①



リモートクイズの様子②



リモート配信元の様子

(2) 通行不可の場所を設ける

- 地震に伴い校舎横の斜面（土砂災害特別警戒区域に指定されている場所）が崩落したと想定し避難経路の一部を通行不可にする。（生徒・教職員には、事前に周知せず。）1回生については訓練後、実際に警戒区域の場所へ行き、見て確認する。
- 教職員は通行不可の場所を把握すると、避難経路を修正しながら生徒を誘導する。



通行不可の場所



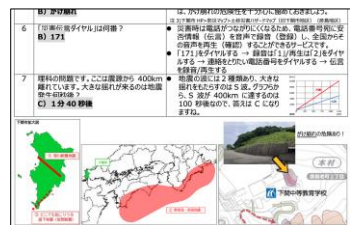
避難の様子



避難完了の様子

(3) 生徒の振り返りの集計と事後検証

- 学習者用端末を活用し、生徒に振り返りを提出させる。（Google Formsを利用。第2回及び第3回の防災避難訓練時にも同項目で振り返らせ、クロス集計を行う予定である。）
- 放課後、教職員の対応についての反省及び改善策の検討を行う。



リモートクイズの解説



生徒の振り返り入力フォーム

生徒の振り返りの集計結果

生徒	知識	防災対応能力
初級生	92.2%	68.3%
中級生	92.9%	65.0%
上級生	94.2%	65.0%
合計	89.2%	65.0%
初級生	92.4%	53.7%
中級生	81.6%	30.7%
上級生	53.7%	25.7%
合計	76.9%	36.4%
初級生	5.0%	4.8%
中級生	4.3%	2.5%
上級生	2.5%	2.3%
合計	3.9%	2.5%
初級生	0.5%	0.8%
中級生	1.3%	0.3%
上級生	1.3%	10.8%
合計	2.1%	3.9%
初級生	2.3%	2.3%
中級生	2.5%	2.3%
上級生	2.8%	2.3%
合計	2.5%	2.3%

3 成果と今後の課題等

- リモートクイズや学習者用端末を使った振り返りの実施により、コロナ禍においても極力密集を避けて効果的に避難訓練を行うことができた。（コロナの状況をみて今後も活用。）
- 生徒の振り返りでは、素早い状況判断や防災意識向上への自主的な取組において評価が低い傾向にあった。今後の訓練では、事前に日時等を告げない方法を用いてより実践的な訓練を実施するとともに、消防署から講師を招聘する等、防災意識を高める仕掛けを検討する必要がある。
- 教職員の事後検証では、災害発生から避難完了までの対応手順について、全職員での理解が不十分であると判明した。次回以降は、職員間の共通理解や連携を強化し、災害対応において一人ひとりがより高い意識をもって取り組む必要がある。

一覧にもどる

取組名	危機管理マニュアルの見直し		
特徴	緊急時に素早く対応できる仕組みづくり		
学校名	山口県立宇部総合支援学校	期日	

1 ねらい

- 災害時の本部の場所を明確にし、速やかに情報集約や指示ができるようにする。
- 教職員が緊急時の対応方法を把握し、的確に行動できるようにする。
- 訓練等をもとに、マニュアルを変更する。

2 概要

(1) 緊急時の本部の設置と情報集約

本校は、教員の不足から、教頭、各学部主事が授業に入り職員室に管理職が誰もいない場面が少なくない。前期の避難訓練（地震）は、放送とともに児童生徒、教職員がグラウンドに移動し点呼を行う流れで実施した。児童生徒の安全確認はできたが、実際に避難を要する事案が発生した時に、教職員の所在確認及び情報の集約方法が確立されていなかった。そこで後期の避難訓練（火災）では、事務室に本部を設置し、情報の集約、避難の検討、指示を行う流れを設定した。また、緊急時は、職員が必ずいる事務室に情報を集約し、速やかな情報発信をするためのマニュアルを作成した。



「火災避難訓練の様子」

(2) 不審者対応の見直し

不審者対応のマニュアルは存在したが、不審者を発見した時の具体的な行動が明記されていなかった。不審者を刺激せずに教職員へ情報を発信し、児童生徒の安全を確保する。現場で誰が対応し、対応中の情報をどこに、誰が伝達するのかを検討し、マニュアルを作成した。これらの内容は、職員会議で共通理解を図った。

(3) 児童生徒が所在不明になった時の対応

9月下旬に児童が所在不明となる事案が発生した。管理職への連絡、校内放送で教職員へ捜索の依頼、発見までが比較的スムーズに行えた。しかし、本校の敷地の広さや周辺の交通量を考えたときに、もっと素早く正確な情報を発信し、捜索に入る必要性を感じた。そこでマニュアルの見直しを行い、児童生徒の不在が分かった時点で、管理職への連絡と、校内放送を使った捜索依頼を同じタイミングで行うよう変更した。また、その放送で、服装や興味のある内容等の情報を合わせて発信することとした。

3 成果と今後の課題等

- 実際の避難を想定した訓練を実施したことで、課題を把握することができた。今後も、訓練を繰り返すなかで、マニュアルの見直しを行う。
- 本校では、車いすを利用している児童生徒が多数おり、クラスの教員だけでは、児童生徒が安全に避難できない。担当のクラスを安全に避難させた後に、周囲のクラスと連携し人手を必要とするクラスに十分な人員を派遣できるよう教員の意識改革が必要と感じた。
- 1月に児童生徒捜索訓練を行い、課題とマニュアルの見直しを行う。

取組名	大規模災害対応の机上シミュレーション		
特徴	保護者・地域・災害アドバイザー専門家との連携		
学校名	山口県立山口南総合支援学校	期日	令和4年8月5日（金曜日）

1 ねらい

- ①起こりうる状況を想定把握し、学校地域を含めた全体の動きを理解する。
- ②指揮系統・誰がどのタイミングでどう判断するのか確認をする。
- ③各教員が、どのタイミングで何をすべきかを考え、把握する。
- ④幼児児童生徒の動きと保護者、地域住民の動きを考える。
- ⑤どんな問題が生じるのかを想定し、対応策を話し合い、情報を共有する。

2 概要 【コロナ感染症予防として、会場を分散させてリモートで行った】

(1) 事前準備：シナリオの作成（生徒部）

現状把握の上、大規模災害時に起こりうる被害を考える。そのときどのように対応するか、「危機管理マニュアル」を参考にして、具体的に考えておく。

(2) 訓練実施

オリエンテーション・実施・質疑応答

生徒部作成のシナリオに沿って、時系列で想定される状況で「その時にどうすべきか」を全員で考えます。司会進行から質問への回答者を指名します。いつでも回答できるように準備してもらい、即答で答えてもらいます。

(3) 評価・検証

- ・振り返りアンケートの実施。
- ・前年度までの他の施設との連携に関して見直し。地域交流センターとの協議。
- ・訓練時に不明であった備品の数、場所などの確認。
- ・災害用伝言ダイヤル（171）を防災の日に体験利用。



10:48

事務室から全校放送

「揺れが収まっています。皆さんはグラウンド側駐車場に、集合してください。」

Q7：余震が続く中、誰がどのタイミングでこの放送を指示しますか？



「全7会場を繋いでZOOMでリモート開催」



「防災アドバイザーからの助言」

3 成果と今後の課題等

- ・シミュレーションを通じて、緊急時に誰が何をしなければならないかが分かった。各教職員が発言する機会が多く、全員が主体的に緊急時対応を考えることができた。教員、事務職員、寄宿舎職員の役割分担を見直し、幼児児童生徒の安全確保を最優先した体制を構築する。
- ・来年度は保護者に積極的に参加を呼び掛け、参加人数を増やしたい。